（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4371100449		
法人名	有限会社　ハートフルハウス		
事業所名	グループホームとどろき		
所在地	熊本県宇土市栗崎町736番地		
自己評価作成日	令和6年　3　月　6日	評価結果市町村報告日	令和　6年　3月　28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和 6 年 3 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

周囲を自然に囲まれており、自然と触れ合いながら、春夏秋冬を肌で感じる事ができます。また四季の移り変わりを楽しみながら、穏やかに、笑顔で生活されてます。重度の認知症の利用者様も出来るだけ普段通りの生活が出来るよう体操やレクリエーション、行事等にも積極的に参加していただきながら、職員と一緒の時間を楽しまれています。ターミナルケアも行っており、「最後までとどろきで生活したい」という希望のある利用者の要望には応えられるよう、支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

自然に囲まれた事業所での生活は、木花や風で四季を感じることができ、訪問時の介護日誌には敷地内に「筍を見に行った」と記載があるほど自然が生活に密着していました。入居者の方々の認知症の症状は様々で、時には「外に出たい」等の急な訴えもあるようですが、寄り添い、一緒に外に付き添う様子もありました。管理者面談、職員面談共に「グループホームは生活」の言葉がよく聞かれ、日頃の様子をうかがうことができました。コロナ禍であったこの数年、普通が普通でなくなった様子もあるようですが、毎月支援の目標を決め、入居者の自立につながるよう、穏やかな生活が送れるよう、支援を行われていました。日々の生活を動画に残しておられ、入居者の普段の様子を拝見しましたが、面会制限があったり、運営推進会議の開催が難しく披露の場が持たれていないことが残念でなりません。家族・地域の方々に披露する場が持たれ、共に笑顔で見ることができる日が訪れることを願うばかりです。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「温かい心と笑顔で会える場所」という温心会法人内全施設の思いを基に、GHとどろきの理念を掲示しており、仕事について迷ったときには理念に基づいた仕事を行っているか考えるよう指導している。	法人理念・事業所理念は職員会議で振返る機会を持つ他、日常的にケア等について常々職員に伝えて共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスが5類に指定されているも、感染対策で活発に交流は難しいが、地域の婦人会の方や区の役員の方たちには、GHとどろきの活動を定期的に通達している。	入居者と地域が直接つながりを持つ機会作りは難しい状況が続いたが、地域清掃や会議等には事業所からの参加を継続している。数年に渡るコロナ禍で、今後どのような交流を持つことができるか検討しているところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議（書面）時に高齢者の心身の特徴について理解を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議（書面）では各利用者様の状態を報告し、書面で回答のあった事項を参考に仕事に活かしている。	今年度までは書面により事業所の活動等を報告し、書面で意見等返信を頂いている。来年度より対面による会議開催を予定しており、地域役員等に声掛けを行っている。	コロナ禍であったこの数年、書面による報告が行われていました。運営推進会議の目的を共有し、入居者の暮らしの質の向上に繋がる会議の再開に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議（書面）を中心にして、介護保険更新申請時等、市役所から貴重な意見を頂いている。	運営推進会議の機会に書面により事業所の取組みを伝えており、市役所訪問等の際に事業所の取組みを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月１回の職員会議時には身体拘束についての議題を掲げることにより、個人を尊重した対応をケアの実践に取り組んでいる。	法人で虐待・拘束委員会を2ケ月に一度開催しており担当職員が出席している。委員会での内容は事業所職員ミーティングで共有している。日頃の生活では「今はこの時間」の決めつけをせず、喜怒哀楽の制約をしないケアに取組んでいる。研修だけでなく、職員自らが言葉や気付き、動きについて考えることを大事としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修である職員研修において、高齢者虐待とは身体的・心理的・金銭的・介護放棄などがあることを指導した。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様もおられ、職員と一緒に権利擁護についての知識を取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には必ず契約する際には重要事項の説明を行い、家族様の同意頂いている。特に利用料金については不安を抱えている家族様もおられる為、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルスの感染対策にて、面会に制限しているが、希望により窓越しでの面会を実施している。	感染症対策により制限も設けられていたが、窓越しや場所を工夫し受入れた。面会の際には職員からも入居者の様子を報告するとともに意見を得る機会としている。看取り支援の際には面会制限をせず、家族とも話合う機会を重ね意見・要望を確認しながら対応を行った。担当者会議にもできるだけの参加を依頼している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者会議の内容を職員全員に通達し内容の把握に努めている。疑問点等は質問し、その都度解決するように心掛けている。	日頃から職員は管理者等に意見を伝えることができ、必要に応じ法人へ報告し検討する。事業所内では毎月の目標を定めており、職員会議時に先月目標の反省と今月の目標について議題を持っている。会議時には入居者状況だけでなく、職員の気付きや意見・提案を表すことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の消化や残業時間が生じないシフト表の作成し職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	インターネット研修など職員研修を通して職員個人の能力の向上を目指して取り組んでいる。外部研修の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換や勉強会を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接、アセスメントを実施。職員には事前にカンファレンスを行い情報の共有を行っている。入所後は環境の変化により、事前情報と異なることもある為、再度アセスメントを行いながらケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面接、契約時の家族との面接により家族の困りごとや悩み事など今後の		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境の変化に伴うことによる生活に慣れて頂くようサービスの提供に努める。その後は課題として優先順位を見つけながらサービスの提供を行って行く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事は、ご自分でして頂き、過剰なサービスを行わないようにしている。グループホームとしては、出来る限り家庭環境に沿った生活を支援するという立場を取るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、家族に家族便りを送付し、担当職員が利用者の情報を細かく伝えている。受診情報、当月の予定も掲載している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越しでの面会ではあるが、面会時にはゆっくりした雰囲気で会話が出来るよう心掛けている。また面会者には職員からの近況報告も行っている。	コロナ禍でこの数年外出や来訪による支援は難しいものであった。家族との関係が希薄にならないよう、面会方法に工夫し受入れてきた。感染症対策による制限前には隣接する法人事業所との交流や保育園児との行事等もみられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は自室にこもらないように、ホールで過ごして頂いている。また誕生日会や催し物実施時には皆で参加して頂けるように促している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡され退所後には、通夜・葬儀に参列し、家族からお礼のお言葉を頂き、喜ばれている。退所の手続きにも丁寧な返答を心かけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人と会話しながら、本人の希望、要望の把握に努め、応えることが出来る様にしている。利用者からの要望が聞き取る事が困難な際には、家族からのアドバイスを参考にしている。	入居者の思いや意向は日頃の職員の寄り添いにより把握している。事業所では、どうしたら入居者が生活しやすくなるかを考えたケアを行っており、時間による決めつけをせず、できるだけ実現に向けた支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報提供書、本人・家族との面接により、これまでの生活環境、生活歴を聞き取り、サービスの提供を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を参考に最近の本人の状態や言動を把握しながら、ケアの実践に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の職員会議により、モニタリングを行っている。また三ヶ月に一度の評価をおこなってケアプランを作成している。	毎月職員会議で入居者の状況を共有している。3ケ月に1回生活に対する行動のカンファレンスを行い、必要に応じて介護計画に繋げる。担当者会議では家族へ事業所の対応を伝え、意向も把握する。家庭状況の変化もあることから、できるだけ担当者会議には家族の参加を頂くようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務に入る前には必ず、介護記録を確認するようにしている。ケアプランに目標も共有出来るようにチエック出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩に行きたい、テレビを見たい、塗り絵をしたい等、同じ時間に出来ないこともあり時間を区切って要望をかなえるように工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一月にはどんどや見学に行き、同グループの保育園との交流も図ることができた。また馬の餌やりを行い、動物とのふれあいの機会を持つことが出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望を取り入れている。かかりつけ医は入所前から医療機関を利用される場合もある為、その際には協力医療機関ではなく以前からのかかりつけ医に診てもらっている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現在は協力医による訪問診療を利用が殆どである。歯科等専門医も入居者に応じ個別に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時には事業所内の訪問看護師と連携を取りながら、アドバイスを受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族、病院関係者と話し合いながら、早期に退院できるように支援を行っている。入院直後にはケアの注意点を報告するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化時、悪化時には家族との話し合いを行い、最後までグループホームでお世話をさせて頂いて良いのかカンファレンスを実施する。その際には出来る事出来ないことを明確に伝え、了承して頂く。	入居時に重度化や終末期に向けた方針の説明を行っている。実際に体調変化・悪化が見られる際には医師他関係機関・家族と話合いを重ね、支援を行う。この数年はコロナ禍であったが、看取り期には家族の面会制限を解除し、ゆっくりと一緒に過ごして頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調変化時だけでなく、事故発生時のマニュアルも作成し職員全員が対応出来る様にしている。緊急連絡網も作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回実施。実際に利用者もグループホームの外に誘導し、緊張感を持ちながら訓練が出来ている。	事業所職員と入居者で火災訓練を年2回行っている。事業所立地状況や地域情報をもとに予想される対策・検討を行っている。台風の際には日頃の備蓄に加えた備えを行っている。	避難訓練は入居者も参加し行われていますが、入居者の行動等による課題も見えてきているようです。夜間想定が難しい状況も聞かれましたが、有事の際には事業所単独での避難が必要な場合もありますので、職員間の動きの共有や継続した訓練の実施に期待します。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する会話は基本的に敬語で会話し、個人の人格を尊重した対応をおこなっている。利用者の言葉を否定しないよう尊厳を傷つけないようなケアを行っている。	写真等掲載について入居者・家族へ説明している。年間計画により接遇研修を毎年行っており、一人ひとりの尊重とプライバシー確保への学びを重ね、ケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日常生活を観察しながら、また利用者からの言動により、出来る限り利用者自身から希望を表して頂けるように心掛けいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は大体決まっているが、利用者のその日の状態に合わせながら生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人が衣類を選択できる場合には、利用者自身に衣類を選んで頂いている。また外出時には外出に合った衣類を選ぶことにより気分転換を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嚥下状態を確認し食事形態を決定する。安全な食事提供を行っている。誕生日会や行事等実施時には特別な食事を提供している。食事終了後には自分で食器を台所へ持って来られる利用者もおられる。	栄養士による献立により事業所で手作りの食事を基本として法人厨房と協力し提供している。事業所では「食事」を生活のリズムとして大切にしている。法人厨房との連携はこまかにできており、普段は事業所での手作りであるため、体調等による臨機応変な対応も可能である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房職員が様々な食材を使用して、利用者の好みに応じた食事を提供している。食事摂取量をチエックし摂取量が少ない時には栄養補助食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員口腔ケアを行っている。義歯を使用される利用者は毎夕義歯洗浄剤で清潔に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位可能な利用者は、定期的にトイレ誘導をしている。排泄の意思が見られない利用者であっても、トイレ誘導を行い、排泄を促している。	身体状況にもよるが、昼間はできるだけトイレでの排泄に向け、本人の様子の把握や定期的な声掛け等で誘導している。夜間は体調等も考慮し、時には医師の意見も仰いでポータブルトイレの利用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チエック表を使用して排便状況を把握している。排便コントロールがうまくいかないときには、医師に相談、助言を頂き、下剤の使用や水分・お茶の促し、身体を動かすように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則週2回の入浴実施。体調不良等で入浴できない際には清拭、衣類交換で対応している。職員ではなく、利用者のペースで入浴できるように配慮している。	基本的に曜日を決めているが、体調や気分等により入浴ができない際には翌日以降の入浴を行い、週2回以上を支援している。体調不良時は症状等により個別の対応を行っている。認知度が高くなると見守りだけでは難しい状況となるが、動きを促す支援等、入居者自身の力を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は食堂、ホールで過ごされているが、利用者の年齢、体力、体調を考慮しながら、休息して頂いている。体力のある利用者は昼間の活動を促し夜間はしっかりと良眠して頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を配薬するときは、名前と顔を見て確認しながら服薬介助を行っている。お薬情報を確認して効能を理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中は軽体操をしながら、頭の体操として簡単な計算、ことわざ、都道府県名のクイズや歌を歌ったりして、刺激のある生活が送れるように心かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、受診を通しての外出支援を行っている。家族付き添いで受診に行かれる際には良い気分転換にもなっている。	事業所は自然を感じることができる場所にあり、玄関をでる感染症対策を行いながら季節の花見や祭り見学ドライブに出向いた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は施設で行っており、利用者個人では管理されていない。生活必需品等あれば、買い物支援を代行して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はお正月・お盆・誕生日などに家族から掛かってきており、本人とお話され喜ばれている。月に一度の家族便り、年賀状の送付をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	5S（整理・整頓・清潔・清掃など）を日課として生活しやすい環境整備を行っている。周囲も自然に囲まれており季節を感じる事が出来る環境である。壁には利用者の作品や写真を展示して、生活感のある環境つくりを行っている。	安全に配慮して整理整頓されており、季節を感じる飾り等もある。入居者の生活の好み等を把握し、入居者が落ち着いて過ごせる環境かどうか、不快な様子が見られた際は光や温度等に原因がないかを探り、快適に過ごして頂けるよう支援を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや食堂、居室で一人一人が自分に合った空間で過ごすことが出来る。また座席がほぼ決まっていて、気の合う利用者で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や家具を持ち込み、落ち着いた雰囲気で生活できるようにしている。また家族の写真を飾って、思い出を共有できるように配慮している。	使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼しており、安心・安全へ配慮し、入居者自身が落ち着いて過ごすことができるようにしている。できるだけリビングで過ごして頂きたいと思っているが、疲れが見える際や希望により、ご自身の好きな場所等自由に過ごして頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札や手すりの設置、トイレの案内掲示等で利用者が建物内部の状況を把握することが出来る様にしている。		

2　目標達成計画

事業所名	グループホームとどろき
作成日	令和6年3月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練は利用者様も参加されてますが、利用者様の行動により、夜間想定した避難訓練が困難である。	利用者様と職員が安全が確保出来る避難誘導を行う。	避難訓練時に理解・移動が困難な利用者様に対する方法を職員間で、話し合い安全に避難誘導が出来るように取り組む。	6ヶ月
2	4	コロナ禍よりこの数年、書面による運営推進会議を行っている。	対面での運営推進会議を開催し、様々な意見を頂き利用者様の暮らしの質の向上を図る。	地域の方々へ、運営推進会議への参加の呼びかけを行い、開催日時の連絡を通達する。	３か月
3					
4					
5					

注１）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は、行を追加すること。